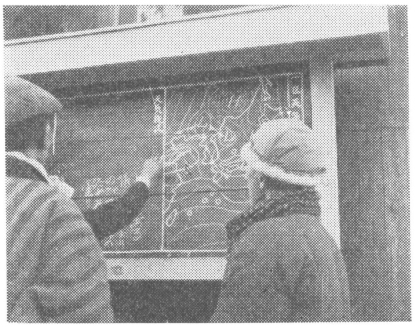
地方だより

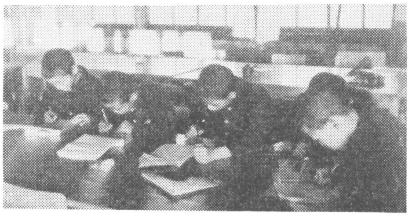
姫島の気象観測所



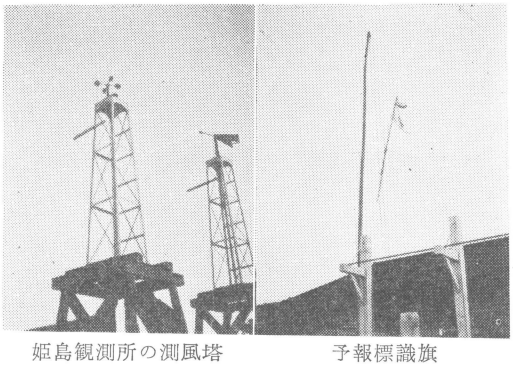
ラジオ通報による天気図によって
気象概況を知る村民たち

泉都別府，最近は高崎山の野生猿で有名になった大分県の北東方にある国東半島の北，北西に周防灘，北から北東に瀬戸内海，東から南東に伊予灘を控えた小島姫島は面積約 6.8平方粁，人口約 4,200人の火山島である．

この小島姫島は，漁業が主で，牧畜業，製塩業がわずかに行われている程度である．また大分，愛媛，山口各県の漁業紛争のたえまない場所でもある．ここの中学校に西村校長の提唱で村民一致のもとに村営として，昭和26年6月1日から気象観測が開始され，同年には大分地方気象台の区内観測所に指定されました．ここでは単なる教材に止まらず，実生活面に成果をあげていますので，



気象班の統計・調査・観測・通報風景



姫島観測所の測風塔　　予報標識旗

御参考までその状況を紹介しましょう．

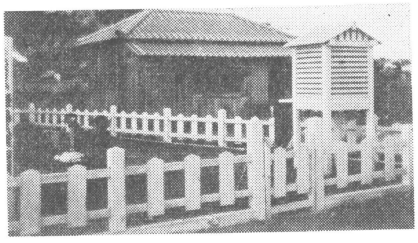
この中学校はへき地で，村全体が殆んど漁業，製塩業に限られているためか気象に対する関心は非常に強く，島民の生活の一指針となって学校気象班のクラブ活動がつづけられています．現在，北村永正先生指導のもとに各学年8名づつ，計24名が気象班の仕事をしています．毎日9時の天気，雲量雲形，風向風力，気温，湿度，降水量，蒸発量および地温を測定し，地温は農協え，蒸発量は姫島塩業組合え夫々知らせ，農業や製塩業の資料にまた風雨，その他の注意報，警報は通報を受けたら直ちに，機帆船組合と，漁業組合に知らせ注意をうながし，毎日の天気図を役場前や各部落の掲示板に予報と共に公示している．

台風のときは，姫島は電源の関係で，昼間は送電停止によりラジオが聞かれないから気象班は蓄電池でラジオ放送を聞き，時々刻々の台風情報をマイクで村民に知らせているので，島民の全部から非常に感謝されています．

このように学校気象班が島民の実生活に直接つながっているのも，めずらしいと思います．実際，寺下姫島漁業組合長はつぎのように語っています．「中学に気象班ができて，天気図と警報を知らせてくれるようになってから，漁船の被害は大変少くなったので，皆んな有難がっています．中学校で気象の知識をしっかり身につけて卒業するので，若い船員や漁民がみんな優秀で姫島村民の死活をにぎる水産業発展のために，とても力づよいことです」と．

当台，管轄の区内観測所の中でも，このように村民一体となって日常の生活の中に気象がとけこんでいる処は珍らしく，ここ姫島のような例は全国的にもまれだろうと思われますので，敢えて紹介の筆をとりました．

（大分地方気象台　小野義人）



姫島観測所の露場